①2021年3月9日、晴天に恵まれた鹿島神宮で祭頭祭を執り行なった　②鹿島神宮拝殿　③大総督の大任を務めた山本開琉くん
④1年間の延期を乗り越えて祭頭囃を奉納する溝口郷　⑤次の世代へと受け継がれていく

露目するものです。勇ましい武者姿の大総督が肩車され、大提灯、大旗、大軍配、まとい、囃人など約250人の行列を率います。囃人は老若男女さまざまで、子どもたちの元気な囃し歌も聞こえれば、大人たちの年季の入った囃し歌もあり、長い行列は見飽きることがありません。

神栖市内の地区が当番字に選ばれた年は、息栖神社へも祭頭囃を奉納する習わしがあります。その息栖神社への奉納をはじめ、1年間大切に育てた大豊竹の奉納、水神社から鹿島神宮へ御分霊をお還しする昇神祭と続き、3月9日の祭頭祭を迎えるはずでした。

「息栖神社奉納のわずか2日前に、新型コロナウイルスの影響で鹿島神宮から開催自粛の要請があり、さらに3月9日の奉納も泣く泣く断念することに。鹿島神宮との協議で、あくまでも〝中止〟ではなく〝延期〟であることを強く確認し、1年間の延期を受け入れました」

三宅さんの言葉から、祭頭囃・春季祭の突然の延期という事態への驚きと落胆が伝わってきます。

コロナ禍でも気持ちを一つに

延期が決まり、大勢で集まることもままならない日が続きます。

「なかなかコロナが収まらず、第2波、第3波と続いたときは地区内に重い空気が漂いました。2度目の延期はなく、中止となってしまうからです。そんな中で仲内委員長が、何が何でも、どんな形でも必ず溝口郷の祭頭囃を奉納しようと、みんなの気持ちを一つにまとめて引っ張ってくれました」

役員会の際は、マスク着用、消毒、換気、座席間隔など感染防止対策を徹底。さらに、参加者に対して2週間分の検温記録の提出、おそろいのマスクを作成し着用、班長と役員が消毒スプレーを携帯、打ち上げの中止などを取り決めました。

こうした努力のもと約1年ぶりに全体練習を再開し、2021年2月28日、息栖神社への奉納が実現しました。

念願かなって迎えた祭頭祭の日

そうして迎えた3月9日、祭頭祭当日は晴天に恵まれた穏やかな一日となりました。「本陣を置いた鹿島神宮近くのホテルで、廻り祭頭と息栖神社奉納の動画をスクリーンに上映しました。集まった囃人が着付けや化粧をしてもらいながら楽しそうにしている様子を見て、丸2年かけてようやくここまでこぎつけることができたと、感慨もひとしおでした」

午前が鹿島神宮拝殿での祭頭祭で、狩衣姿の大総督や役員などが参列。午後はルートを大幅に短縮して祭頭囃を奉納し、夕方には次の年の当番字を決める春季祭を実施。規模を縮小しながらも一連の行事を執り行ない、当番字の大役を果たすことができました。

「大総督の山本開琉君はこの2年ですっかり成長し、当日は出陣の号令からあいさつまで立派に務めてくれました。山本家の皆さまには感謝しかありません。最年長の参加者は91歳の田仲一男さんです。練習の時から自前で軍配を作り、大きな声を出してみんなを鼓舞してくれました。どの参加者にも、家族や親戚が寄り添って応援しています。一人ひとりみんなが主役なのだと、心から感動しました」

延期から1年。息栖神社での祭頭囃（2021年2月28日）

若い世代へ、継続への願い

祭頭祭の当番字として2年間奉仕し、すべての行事を終えた今の思いを改めて三宅さんに聞きました。

「祭頭祭を通じて学んだのは、人のありがたみと感謝の気持ち。多くの方から託された思いは、決して忘れることができません。今の願いは、二十数年後に次の世代が祭頭祭の当番を受けやすい溝口にすることです。そのためにも、今回育まれた郷土愛を大切にしていきます。もう一つ、神栖市を背負っていく若い皆さんに伝えたいことがあります。もし皆さんの地区が当番字に決まったら、ぜひ挑戦してください。溝口が日川、萩原、奥野谷の皆さんに支えていただいたように、今度は私たちが全力でサポートします」

長い歴史を持つ祭頭祭は、古いしきたりを受け継ぎつつ、時代に合わせて変化している部分もあります。その一つが日程です。祭頭祭は3月9日のまま、祭頭囃・春季祭は多くの人が参加しやすいよう9日直後の土曜日に行なうことが新たに決められました。

地域の絆に支えられ、1000年以上も続いてきた祭頭祭。この先もずっと絶えることなく、春を告げる「イヤートホヨトホヤァー」の声が響き渡りますように。

参考資料：『鹿島の祭頭祭』（祭頭囃子保存会）
写真：『令和三年祭頭祭記念写真集　右方大頭溝口郷』（溝口郷祭事委員会）より